

## ■ 掲示板

### ■ 兵庫県立大学大学院物質理学研究科教員公募

兵庫県では、県立3大学（神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学）を統合し、21世紀にふさわしい新県立大学である「兵庫県立大学」を設置すべく、準備を進めています。

兵庫県立大学では、物質科学に関する教育研究等を行う学部・研究科として、「理学部」・「物質理学研究科」を設置します。現行の姫路工業大学理学部及び同大学院理学研究科物質科学専攻の移行を予定しており、このたび専任教員の公募を行うことになりました。つきましては、下記の要領をご参照のうえ、ぜひご応募下さいますようお願いいたします。

公募人員：助手1名

物質理学研究科・物質科学専攻・物質機能解析学部門（エックス線光学分野担当）

分野：高輝度放射光の特性を活かしX線光学を駆使して物質科学を推進し、その産業への利用を視野に入れた研究。大学院・学部の実験および研究指導に参加していただく。

また、SPring-8の兵庫県専用ビームラインの実務担当者として技術的管理を分担していただく。

応募資格：博士の学位を有すること、あるいは2004年9月30日までに取得見込みのこと。

公募締切：2004年4月30日（金）（必着）

提出書類<sup>※1</sup>：①履歴書、②研究業績リスト、③主要論文（5編以

内）の別刷又は全文のコピー、④各種研究助成金の取得状況、⑤これまでの研究概要（2000字以内）及び今後の研究方針と教育に対する抱負（2000字以内）、⑥推薦状（応募者の専門分野についての所見を求めうる者が作成したもので、推薦者の氏名及び連絡先を記載したもの）、又は応募者について問い合わせの出来る方2名の連絡先 注1）原則として応募書類は返却しない。

選考方法及び結果通知時期：書類審査及び必要に応じて面接を行う。選考結果は6月下旬頃に通知する。

採用時期：2004年10月1日

任期：7年（再任する場合は1回を原則とし、再任後の任期は5年とする。）ただし、特別の事情があると認められる場合は、一定の手続きを経て例外措置として再々任を認めることがある。

応募方法：封筒に「エックス線光学分野助手応募書類在中」と朱書きし、下記の書類送付先宛に簡易書留で郵送のこと。

書類送付先：〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町光都3-2-1 姫路工業大学（2004年4月1日に兵庫県立大学に変更）

理学部事務部総務課

問合せ先：〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町光都3-2-1

姫路工業大学大学院理学研究科 物質科学専攻

松井純爾又は籠島 靖

TEL：0791-58-0230（直通） FAX：0791-58-0236

E-mail：matsui@sci.himeji-tech.ac.jp

なお、当理学研究科のホームページのURLは

<http://www.sci.himeji-tech.ac.jp> です。

## ■ 会告

### 第78回幹事会

2004年1月7日（水）、物材機構会議室で開催。

評議員会、総会に向けて、本学会の2004年度の各幹事活動方針等を確認し、とくに会員増加運動の成果、特別委員会設置、学会財政状況等について検討した。

### 第70回編集委員会

2004年2月6日（金）、東大工学部で開催。

「放射光」Vol. 17, No. 1の評価、および今後の編集方針等を検討した。

### 第17回年会・合同シンポ

#### 第6回実行委員会（反省会）

2004年1月14日（水）、山水亭で開催。

各担当からの反省点および問題点を検討し、次回以降への申し送

り事項とすることとした。

### 第79回幹事会

2004年3月6日（土）、東大工学部で開催。

ホームページの現状と今後の展開、若手に向けた行事企画、会誌のカラー化による財政の点検、研究者、技術者の相互交流の促進、先端的放テーマ・試料を持つ他分野の放射光利用者との交流の促進、放射光の未来像を描く、人材育成等について検討した。

### 第61回評議員会議事録（案）

日時：2004年1月8日（木） 12：00～13：00

場所：物質・材料研究機構 会議室

出席者：飯田厚夫、大野英雄、柿崎明人、籠島 靖、河田 洋、木下豊彦、熊谷教孝、小林克己、坂田 誠、曾田一雄、高田昌樹（行事幹事）、高橋敏男、田中健一郎、

谷口雅樹, 中井 泉, 中川和道, 並河一道, 野村昌治,  
松井純爾, 松下 正 (会長), 圓山 裕, 横山利彦,  
柳下 明 (編集幹事), 若槻壮市 各評議員  
桜井健次 (庶務幹事), 木村真一 (渉外幹事), 百生 敦  
(会計幹事), 西野 (事務局)

欠席者: 朝倉清高, 岩崎 博, 上坪宏道, 鎌田雅夫, 北村英男,  
大門 寛

(審議事項)

1. 議長に並河一道評議員を選出した。
2. 第60回評議員会議事録(案)を承認した。
3. 桜井庶務幹事より前回評議員会以降の入会申込者の一覧が提出され, 正会員10名 (うち学生8名), 賛助会員1社の入会を承認した。さらに, 退会届 [正会員7名 (うち学生2名)], 賛助会員 [1社] に関する報告があった。その結果, 現在の会員数は正会員1,242名 (うち学生145名), 賛助会員57社 (62口) となった。
4. 桜井庶務幹事より会員拡大運動について, 最近10年間の会員数の推移に関する報告があり, この10年で年々30~50名の入会があり, 右肩上がりに増えてきていることを確認した。しかし未だ多くの関連研究者が未入会であることが想定されるなかで, 昨年4~5月に1,400名の非会員に入会呼びかけ文を送ったことが報告された。その効果と年会発表申込時期とが重なって10月には50名以上の入会があったが, 未だ, 地域別大学関係会員数の統計から見ると, 地域による較差があること, とくに九州地方の会員分布について説明があり, 今後も九州地方の会員獲得のためにさらに努力していく旨の説明があり, 本会議はそれを承認した。
5. 桜井庶務幹事より, 昨年度の取り決め上の期限が切れ, 事実上活動を終了した放射光施設将来計画検討特別委員会の議論を引き継ぎ, 今後の展開として放射光のグランドデザインについて検討するための特別委員会を新たに組織する必要がある旨の提案があった。  
松下会長より, 各施設の現状を捉えると共に, 長期的展望を持ってそれを支援しつつ, 放射光関連分野全体の将来像を検討し, 放射光コミュニティからのみではなく, どのような視点から見ても説得力がある見解を学会として提示すべきだということが述べられた。そのためには物研連の放射光科学小委員会とも連携し, 幅広い議論ができる場として, 新たな特別委員会を設置する旨の説明があった。  
本会議は特別委員会設置については承認し, この件に関して意見がある者は逐次会長に伝えることとした。
6. 桜井庶務幹事より「江崎玲於奈賞」の受賞候補者推薦依頼について報告があり, 推薦は幹事会に一任することとした。
7. 桜井庶務幹事より第17回 (2004年度) 放射光学会総会議事について報告があり, これを承認した。

(報告事項)

1. 松下会長より2004年度会長として挨拶があった。
2. 桜井庶務幹事より第8回学会奨励賞受賞者 (井野明洋氏 (広大), 矢橋牧名 (JASRI)) について, 懇親会場で授与する旨の報告があり, これまでの受賞者一覧が提出された。本会議は, これを承認した。
3. 桜井庶務幹事より2003年度本学会組織および事業に関する報

告があり, これを承認した。

4. 百生会計幹事より2003年度決算報告があり, これを承認した。  
なお, 最近5年間の会費未納者 (未納額) 統計表の提示があったが, それによると会員数の増が長期滞納者, 連絡先不明者数を増やし未納者数 (未納額) を増やしていること, 2003年度は多少減ったが未納額は今後も増えていく傾向にあることが報告された。  
会費を3年間滞納した8名については退会, 連絡が不明となった7名についても会員原簿から削除することを承認した。
5. 桜井庶務幹事より, 2003年度の松下体制の中間総括して, 年会・合同シンポ, アジアフォーラムなどの行事活動, 会誌「放射光」出版活動を通して, 光源周辺の研究者とその利用者が, それぞれの立場から連携し, ツールとしての放射光技術を磨くことについて情報交換をする場の充実を図り, 放射光の応用をさらに拡大・深化させることを目指したことが報告された。また, 将来計画特別委員会, 学会活動総合検討特別委員会での審議, 若手への学会奨励賞授与, 会員拡大運動, 幹事会・評議員会の電子化など, 様々な角度から学会のあり方について検討してきたことが報告され, 本会議はこの中間総括を承認した。
6. 桜井庶務幹事より2004年度本学会組織に関する報告があり, これを承認した。
7. 桜井庶務幹事より2004年度の主な事業計画に関する報告があり, これを承認した。
8. 柳下編集幹事より2004年度の編集方針として, 昨年度は読みやすい会誌となるように体裁を整えることに従事したが, 本年度は内容の充実化を検討している旨の報告があり, これを承認した。
9. 高田行事幹事より2004年度の行事活動方針として, 第18回年会・合同シンポの開催, 魅力的な講師を選定し若い世代にアピールする講演会の企画, 様々な分野でサイエンスの要として放射光があることをアピールするシンポジウム, SSH (スーパーサイエンススクール) とのタイアップ, 放射光サイエンスへの理解を深める HP の充実, CD 等の作成を検討している旨の報告があり, これを承認した。  
続いて, 第17回年会・合同シンポの準備作業において不備があり, とくに予稿集の出版上のミスにより, 関係各位にご迷惑をおかけした旨の報告があり, 河田組織委員長からも同様のお詫びのことが述べられた。  
また, 今回は, 学生賞に特別審査員方式 (評議員, プログラム委員は1票5点 (一般は1票1点。)) を導入するので, 審査に協力して欲しいという要請があった。
10. 木村渉外幹事より2004年度の渉外活動方針として, 最重要課題として HP の充実・整備, 例えば HP からの学会発表申込みの継続・改良, 関連リンクの充実, プロバイダーの変更などハード・ソフトの整備, 内容更新体制の確立について検討している旨の報告があった。また, 他団体, 学会の行事への協賛, 学術会議への対応, 会員数拡大, 学生会員への対応などに関する説明があり, 本会議は渉外活動方針を承認した。
11. 百生会計幹事より2004年度予算案が提出され, とくに会誌

のカラー化に伴う印刷費について、カラー代金の別刷収入および広告収入が増えるよう努力をし、全体の会計に響かないように務める旨の報告があった。

また、幹事会で検討した結果、これまで支出項目に記載されてきた「予備費（行事開催など）」は「行事開催費」に、「次期繰越金」は「予備費」と表記した旨の説明があった。今後、さらに会員への還元を検討していく活動が望まれることを踏まえ、本会議はこの予算案を承認した。

(その他)

1. 坂田評議員より SPring-8 の放射光ビーム使用料がユーザーの負担となることについて、これは大きな問題であり、学会として検討すべきである旨の意見があり、大野評議員より3月に開かれる委員会以降に方針が決定する旨の捕捉説明があった。
2. 桜井庶務幹事より次回以降の評議員会（幹事会）の開催予定について提案があり、これを承認した。

評議員会

第62回評議員会

4月3日(土) 12:00~15:00 東大工学部

第63回評議員会

8月28日(土) 12:00~15:00 東大工学部

第64回評議員会

11月27日(土) 12:00~15:00 東大工学部

第65回評議員会

1月 佐賀

幹事会

第79回幹事会

3月6日(土) 12:00~15:00 東大工学部

第80回幹事会

7月31日(土) 12:00~15:00 東大工学部

第81回幹事会

10月30日(土) 12:00~15:00 東大工学部

桜井庶務幹事より評議員（2003.1.1-2004.12.31, 2002.1.1-2003.12.31）の評議員会への出席状況をまとめた表が提出された。さらに過去5年間の評議員会出席者数についても提示され、定足数に満たなかった評議員会の分布を確認した。

## 日本放射光学会第17回総会議事録(案)

日時: 2004年1月8日(木) 17:00-19:00

場所: 物質・材料研究機構研究本館・会議室 (X会場)

議事:

1. 桜井庶務幹事より、出席者が87名、有効委任状数が45通あり、本総会は定款第4章第28条により成立する旨の報告があった。
2. 本総会の議長に並河一道(学芸大)会員を選出した。
3. 松下会長より2004年度の会長として挨拶があった。
4. 松下会長より第8回日本放射光学会奨励賞受賞者(以下の2名)について報告があった。

■井野明洋(広島大学大学院理学系研究科物理科学専攻)

(1971年8月15日生)

・銅酸化物高温超伝導体の電子構造の研究。

■矢橋牧名(勸学館大学科学研究センター放射光研究所)

(1971年4月22日生)

・強度干渉計によるX線コヒーレンスの研究。

5. 桜井庶務幹事より2003年度の本学会組織および事業に関する報告があり、これを承認した。
6. 百生会計幹事より2003年度決算報告があった。それを受けて出席会員より、「この決算書だと特に費用がかかった部分があるようだが、そのようなことがあったのか?」という質問があった。百生会計幹事は、「会誌の出版費用である。これまで繰越金をさらに増やす方向で積み上げて来たが、学会誌の充実のために使うようにした。」と答え、松下会長は、「読み易い会誌を出版することで、会員に還元した。」と捕捉説明をした。さらに出席会員より、「学会奨励賞の副賞の額を上げるように提案した経緯がある者として、この決算書を支持する。」旨の意見があり、本総会は2003年度決算報告を承認した。
7. 松下会長より、「現在の放射光コミュニティが抱えている問題は大変深刻であり、この状況を変えるには既存施設のアップグレード、更新、または新設などが不可欠でありながら、その解決に向かって動いていない。建設中の施設も、必ずしも恵まれたとは言えない状態である。このような状況の中で学会は、今後、学術会議、物研連の放射光科学小委員会のような外部の組織と共に、放射光コミュニティ全体の将来を見据えたグランドデザインをはっきりと描く必要に迫られてきている。」旨のコメントがあった。出席会員より、「将来計画検討特別委員会は解散したのか?」という質問に対しては、「その特別委員会は終了したが、新たにグランドデザインについて検討する委員会を設置する。」旨の説明があった。
8. 桜井庶務幹事より、2004年度本学会組織に関する報告があり、これを承認した。
9. 桜井庶務幹事より2004年度の主な事業計画に関する報告があり、これを承認した。
10. 柳下編集幹事より2004年度の編集委員会の構成および会誌編集方針、とくに本年度より表紙、目次、本文の一部がカラー化され、デザインが大きく変わることが報告された。本総会はこれを承認した。
11. 高田行事幹事より2004年度の行事委員会の構成および行事活動方針として、講演会やシンポジウムの開催、SSHとのタイアップ、ホームページの充実、CDの作成などを検討している旨の報告があり、第18回年会・合同シンポは佐賀で開催されること等が報告された。本総会はこれを承認した。
12. 木村渉外幹事より2004年度の活動方針として、ホームページの充実・整備、例えばHPからの学会発表申込みの継続・改良、関連リンクの充実、プロバイダーの変更などハード・ソフトの整備、内容更新体制の確立について検討している旨の報告があり、現在、ホームページの英語版の必要を考えていることが述べられた。また、他団体、学会の行事への協賛、学術会議への対応、会員数の拡大、学生会員への対応などに関する説明があり、本総会は渉外活動方針を承認した。
13. 百生会計幹事より2004年度予算案に関する報告があり、会

誌印刷費はカラー化による広告料，別刷代の増がこれをカバーする旨の説明があった。また，百生会計幹事，松下会長より「予備費」について説明があった。出席会員より「これまでは大学などでやってきたのに，今年の年会・合同シンポの会場は立派過ぎないか？」という意見が出，松下会長より，「企業展示とポスター会場を隣接して設置するためには，それなりの会場の選択が必要だった。」旨の回答があった。さらに，「その期の繰越金を使うのにも限度がある。慎重に扱うように。」，「購読会員になるなど，小さなところでもこれまで学会の財政を支えてきたことを忘れないように。」，「バランスを考えてやって欲しい。」などの意見があり，本総会を2004年度予算案を承認した。

14. 高田行事幹事より，学生賞の投票について要請があった。

## 会員異動

### ■第61回評議員会で承認

(正会員入会)

南部 英 東大・院・理・太田研(学生)  
 岡田 京子 SPring8/JASRI 利用促進部門 I  
 野田 孝典 阪大・産研・量子ビーム(学生)  
 瀬戸山寛之 分子研  
 榊田 勲 筑波大・物理(学生)  
 赤坂 宗興 奈良先端大・凝縮(学生)  
 末次 恵久 立命館大・理工(学生)  
 山下 雄司 東理大・院・理・物理(学生)  
 岩沢 英明 東理大・院・理・物理(学生)  
 石井 大基 東理大・院・理・物理(学生)

(以上10名)

(正会員退会)

吉見 透 住友化学・大阪  
 大塚 英男 原研・物質科学  
 酒井 楠雄 分子研・技術  
 東山 和幸 筑波大・物理  
 山崎比登志 岡山大・理・物理  
 岡野 洋介 阪大・院・工・物質化学・甲斐研(学生)  
 渡辺 経子 姫工大・院・理(学生)

(以上7名)

(正会員退会させられる者)

桜井 顕治 筑波大・工(学生)  
 佐藤 孝 富士通・厚木・半導体結晶・第2  
 長島 順清 阪大・理・物理  
 Carlos K. Suzuki FUNCAMP Fundacao de Desenvolvimento da UNICAMP  
 加藤 健夫 三菱マテリアル  
 秋吉 崇弘 東理大・理工・物理  
 窪塚憲一郎 姫工大  
 Maksimenko Anton 総研大  
 (以上8名)

(賛助会員退会)

日本ソール㈱ (1口)

## 一口メモ

### ヒヤシンス

地中海沿岸地方が原産のユリ科ヒヤシンス属の秋植え球根で，観賞用に改良され，鱗茎から太い線形の葉が出る。青・紫・紅・黄・白など種々の色の花自体は小さいが，花茎にたくさん咲かせる姿は見事である。香りもよく，室内で水耕栽培をすると，早春から花を咲かせることが出来る。明治時代にはヒヤシントと呼ばれ，現在はニシキユリとも呼ばれている。

春分の日を過ぎますと日照時間が増すと共に日差しも強くなり，サクラを始めとする様々な花が咲き出して，気分が晴れ晴れしてきます。キャンパス内では受験から開放されたフレッシュな新生入生が両親といっしょに入寮の手続きをしている姿を見かけますと，彼ら・彼女らの大学教育に対する大きな期待を裏切らないようにとの責任を感じます。

(No. 56, K. Ohshima)

